

# 学習目標の分類による授業外活動の明確化

Making a list of out of class activities through classification of learning goals

竹岡 篤永

Atsue TAKEOKA

明石工業高等専門学校

National Institute of Technology, Akashi College

〈あらまし〉 工業高等専門学校の1年生を対象とした学び方を学ぶ科目で、到達目標の種類で分類した学習項目を、授業中の習得活動に対応づけることによって、授業外で取り扱う項目を洗い出すことができた。さらに、授業外の学習活動を2つに分類し、これらの活動を含むすべての学習活動に応じて到達点の確認方法を割り当てた。この経緯を報告する。

〈キーワード〉 授業デザイン、学び方、自己調整学習、eラーニング

## 1. はじめに

「学び方を学ぶ」重要性への認識が高まり、高等教育機関において、スタディスキルなどの習得を目指す授業が増えている。しかし、授業時間は限られており、授業内に方法や手順を教えることはできても、それらをしっかりと身につけるための練習時間の確保は難しい。また「学び方」は、方法を学んだ後、その方法を教える授業以外において使うことが期待される。したがって、実際にどれだけ身についたのかを見定めるには、当該授業以外の行動も確認する必要がある。

本稿では、Y工業高等専門学校（以下、Y高専）の学び方を学ぶ科目において、授業中の活動では習得・確認できない項目の洗い出し方法と、補完活動について報告する。

## 2. 科目の概要

本科目は、Y高専1年生の必修科目で、4クラス170人を対象としている。教科書として『学習設計マニュアル』（鈴木・美馬ら、2018）を採用し、高等教育に必要なスキルとしてだけでなく、生涯にわたって活用できる学び方の習得を目指している。科目は1年の前期に開講され、1回が90分、全15回で構成される<sup>1</sup>。内容はすでにX高専で実践したの科目（竹岡、2018）を参照して決めた（表1）。なお、表1は教科書の章の順に示したが、実際の学習の順は異なる。

## 3. 授業のデザイン

授業デザインにあたって、学習項目・到達目標と習得活動・確認方法との対応表を作成した。

### 3.1 習得活動のリストアップ

まず、各章の学習項目を挙げ（表1①）、それぞれの到達目標（表1②）を「説明できる」「実践できる」「自分の状態を認識」の3つに分けた。次に、それら項目を授業中の活動に対応させた（表1③）。「授業中 学習活動<sup>2</sup>」「授業中 個人活動」「授業中 グループ活動」の3つである。この段階で、授業中に学習させることが難しい項目を洗い出すことができた（表1 太字）。

洗い出された項目はすべて「実践できる」に分類したものであり、さらにこの中から、本科目で取り扱うことのできる項目を明確にした。表1「副学習<sup>3</sup>」がそうである。本科目の活動として取り扱えない項目は〔授業外のなんらかの活動〕によって習得するものとした。

### 3.2 確認方法の設定

到達目標（表1②）「自分の状況を認識」は、授業中の個人活動で習得し、チェックリストで確認する。「説明できる」は、授業中の学習活動で習得し、練習問題や試験で確認する。「実践できる」の授業中 グループ活動で習得することは、ワークシートによって確認するものとした。

「実践できる」の副学習はMoodleで行い、確認する。例えばタスク7は、任意のニュース記事を読みクイズに答え、『知識』の信憑性を確かめる問いに沿って考えたことを報告する。「実践できる」の〔授業外のなんらかの活動〕は、習得の経緯をポートフォリオで確認することとした。

<sup>2</sup> 主に、学生が教科書を読み、教員が補足説明をする。

<sup>3</sup> 宿題に相当するが、ほとんど授業の進行と関係なく取り組めるため副学習と名付けた。各回はタスク。

<sup>1</sup> 高専の1年生は15～16歳であるが、学びの形式は大学とほぼ同じである。

#### 4. まとめ

到達目標の種類で分類した学習項目を授業中の習得活動に対応づけることによって、授業外で取り扱う項目を洗い出せ、確認方法を明確にした。実施結果についてはまた別途、報告したい。

謝辞：本研究はJSPS科研費16K00479の助成を受けた。

#### 参考文献

鈴木克明・美馬のゆり（編著）（2018）学習設計マニュアル。北大路書房。京都  
 竹岡篤永（2018）自己ペースでの授業学習を支援するeポートフォリオ等の活用により気づきと考察を促す授業設計。JSiSE Research Report vol.32, no.5, pp.9-16

表1 学習項目・到達目標と習得活動・確認方法の対応表

① 学習項目	② 到達目標	③ 習得活動	④ 確認方法
第2章 学習スタイルを把握する			
ライフスタイル	自分の状態を認識	授業中 個人活動	チェックリスト
VAKTモデル	自分の状態を認識	授業中 個人活動	チェックリスト
VAKTモデルの学習への活かし方	説明できる	授業中 学習活動	試験
	実践できる	[授業外のなんらかの活動]	ポートフォリオ
第3章 学び方を振り返る			
認知主義的学習観	説明できる	授業中 学習活動	試験
自分の学び方を振り返る	説明できる	授業中 個人活動	練習問題/試験
	実践できる	副学習	タスク2・タスク3・タスク4
読む・見る・聞く・書く活動	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	[授業外のなんらかの活動]	ポートフォリオ
第4章 学びの深さを考える			
知識の種類	説明できる	授業中 学習活動	試験
「知識」の信憑性を確かめる問い	実践できる	副学習	タスク7・タスク8
第6章 学び合う下地をつくる			
傾聴の3つのポイント	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	授業中 グループ活動	ワークシート
自己表現のタイプ	自分の状態を認識	授業中 個人活動	チェックリスト
アサーティブな自己表現	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	授業中 グループ活動 [授業外のなんらかの活動]	ワークシート ポートフォリオ
DESC法	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	授業中 グループ活動	ワークシート
第7章 意見を出し合い整理する			
発散技法－ブレインストーミング	実践できる	授業中 グループ活動	ワークシート
		副学習	タスク5
収束技法－KJ法	実践できる	授業中 グループ活動	ワークシート
		副学習	タスク6
第8章 仲間と力を合わせる			
協同学習	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	授業中 グループ活動	ワークシート
グランドルール	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	授業中 グループ活動	ワークシート
第9章 時間を管理する			
タイムマネジメント	自分の状態を認識	授業中 個人活動	チェックリスト
学校学習の時間モデル	説明できる	授業中 学習活動	試験
時間モデル－学び方の工夫	実践できる	副学習	副学習への取り組み状況
		[授業外のなんらかの活動]	ポートフォリオ
できばえを上げる方法	説明できる	授業中 学習活動	試験
第10章 失敗に強くなる			
失敗に対処する4段階	自分の状態を認識	授業中 個人活動	チェックリスト
援助要請（自律的援助要請）	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	[授業外のなんらかの活動]	ポートフォリオ
メンタルヘルス（セルフトーク）	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
第11章 学習意欲を高める			
ARCSによる学習意欲の高め方	説明できる	授業中 学習活動	練習問題/試験
	実践できる	[授業外のなんらかの活動]	ポートフォリオ